

■筑西市立明野図書館

地域に親しまれる『みんなの図書館』を目指して

明野図書館が開館して20年。「みんなの図書館」として、地域の人たちすべてのために『いつでも』『誰にでも』『どんな資料でも』提供しているという考えのもと、利用者サービスを行っています。図書館といえば本を借りに行くところというイメージがありますが、明野図書館では、地域の皆さんが図書館へ足を運び、本に親しむきっかけになればと、様々な事業を行っています。明野図書館で開催されている、人気の事業を取材しました。



親子で泥だんご作りに熱中

木とレンガの暖かき、あふれんばかりの緑、静かに流れるBGM。心地よい空間が広がっている明野図書館は、昭和61年の開館から、今年で20年目を迎えます。登録者数は、昨年度で約8千人（団体等を含む）。1年間の貸出し冊数は8万7千冊を越えています。そのうち旧明野町内の人が約5万冊、その他の筑西市内で約1万2千冊、近隣市町村が約2万2千冊となっています。決して大きな図書館とは言えませんが、居心地の良し、また利用したくなるような図書館作り、心砕いていることが、旧町外からの利用者が多いことからうかがえます。

明野図書館では、図書館に来るきっかけになればと、図書の見学や貸し出しの他にも、たぐさんの事業を展開しています。夏休み最後の日曜日となった8月28

日、市内外から70人以上の親子が集まり、『光る！泥だんご作り』が行われました。

「材料はどこにでもあるものです。土と水と空気。そして重要なのが愛情です。時間をかけてゆっくり、丁寧に愛情込めて丸めると、泥だんごの方が嬉しくて内側から光ってくるんですよ」とは、館長の三輪さんの言葉。その言葉通り、愛情を込めながら大切に土を丸めています。職員のお話では、今まで何回も実施しましたが、一番夢中になるのがお父さんだそうです。今回もそうでした。親子で飽きることなく丸めている姿は、微笑ましいものがありました。丸めながら、次回はいつ開催されるのか気にしている方がたくさんいることに驚きました。

最後に軍手をして、手のひらで優しくなでると光ってきます。だんごと一緒にみんなの顔も輝いてきます。自分で作った自慢の泥だんごを手に記念撮影をして、楽しい一日が終了しました。



■このコーナーを担当したのは

深見 恭子さん (村田)

赤ちゃんに絵本の楽しい時間を

ブックスタート事業も好評です。これは、『赤ちゃんにミルクをあげるのと同じように、心のミルクもたっぷり与えましょう』という目的で5年前から行っているもので、県内では明野図書館が一番最初に取り組んだ事業です。心のミルクとは、もちろん本のこと。毎月、5か月児健診の日に合わせて、『赤ちゃんとお本を開く時間の楽しさや大切さ』『地域が子育てを応援していますよ』などのメッセージを伝えながら、全ての赤ちゃんと保護者に絵本をプレゼントしています。

8月末の健診の時には、10組ほどの親子が来ていました。健診が終わったら、あけの元気館のプレイルームへ。図書館職員とともに、更生保護女性会のメンバーがボランティアとして赤ちゃんを迎えてくれます。一組の親子に一人ずつスタッフがついて、絵本を読んであげます。ゆっくりと読み進めるうちに、赤ちゃんの目が輝きを増して来ます。身を乗り出して絵本をつかもうとする子もいます。声をあげて笑い出す子もいます。そんな赤ちゃんの姿にお母さんが驚いて、赤ちゃんの顔をのぞき込んでしまいます。初めての子育てだというお母さんは、「まだ分からないから本を読んであげたことはないけれど、こんなに喜ぶなら、さっそく読んであげたいですね」と嬉しそうです。お母さんの心のミルクにもなっているようです。「図書館にも遊びに来てね。赤ちゃんも一緒にね。小さい子向きの本もたくさん揃っていますよ」というスタッフの言葉に、安心したようなお母さんの表情が印象的でした。



小さい子どもたちのために、毎週水曜日は視聴覚室を開放して『ブックスタートクラブ』も開催しています。手作りのおもちゃや絵本がたくさんあり、声や音を気にすることなく、小さいお子さんが自由に遊ぶことができます。第一水曜日には、ボランティアによる読み聞かせも実施されています。お母さんたちのちょっとしたサロンにもなっていて、子育て談義も行われたりしているようです。

明野図書館では、他にも様々な事業を企画しています。10月21日(金)には馬頭琴によるフロアコンサートが、11月4日(金)には『絵本で子育て親育ち』をテーマに、明野幼稚園で教育講演会が予定されています。いずれも入場無料です。本の貸し出しにとどまらず、地域のふれあいを大切にした活動を行っている明野図書館。皆さんもぜひ、足を運んでみませんか。